

平成22年度 10月入学

横浜国立大学大学院 環境情報学府

博士課程 前期

学生募集要項

<http://www.eis.ynu.ac.jp>

目 次

I	はじめに	2 頁
II	平成 22 年度 10 月入学博士課程前期一般学生募集要項	3 頁
III	平成 22 年度 10 月入学博士課程前期社会人特別選抜学生募集要項	26 頁
IV	大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による 教育の実施について	31 頁
V	長期履修学生について	32 頁
VI	博士課程前期概要	34 頁
VII	博士課程学生への経済支援、教育研究支援制度について	48 頁
VIII	提出用書式集	50 頁

I はじめに

本冊子「平成22年度10月入学 横浜国立大学大学院 環境情報学府 博士課程前期 学生募集要項」には、平成22年10月に博士課程前期へ入学を希望する人に必要な情報が書かれています。

募集には、「一般」、「社会人特別選抜」の2種類があります。「一般」に関する事項はⅡ章に書かれています。この章には、専攻に依らない共通事項が前半に、各専攻が個別に指定する事項が後半に記載されています。また、「社会人特別選抜」に関する事項はⅢ章に、社会人の就学に関する特例事項はⅣ章に、教育研究内容の概要はⅥ章に、出願手続きに必要となる書式集はⅧ章に記されています。

入学を希望する人は本冊子を良く読んで自分に必要とされる情報を正確に取得し、間違いのないように出願手続を行なってください。

研究分野により受け入れ可能な人数が異なります。あらかじめ **必ず志望指導教員とよく相談して** 願書を提出してください。志望指導教員がわからない場合は、Ⅵ章の教育研究内容の概要を読むか、表紙裏面に示す各専攻・コースの教員へお問い合わせください。

志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがあります。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理します。それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはありません。

Ⅱ 平成22年度10月入学 博士課程前期 一般 学生募集要項

1. 出 願 資 格

次のいずれか一つに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者または平成22年9月30日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者または平成22年9月30日までに学士の学位を取得見込みの者^[注1]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または平成22年9月30日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または平成22年9月30日までに修了見込の者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 平成22年3月31日において学校教育法第83条に定める大学に3年以上（休学期間を除く）在学した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注2、4]
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学府において、本学府の教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの^[注5]
- (10) 大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学府が認めた者で、平成22年9月30日までに22歳に達する者^[注3、5]
- (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注5]
- (12) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの^[注5]
- (13) 大学卒業までに16年を要しない国の大学を卒業した者で、次の二つの条件a)とb)を満たし、かつ、我が国の大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学府が認めた者^[注5]
 - a) 大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者、または、平成22年9月30日までに1年以上研究に従事する見込みの者
 - b) 平成22年9月30日までに22歳に達する者

[注1] (2)における平成22年9月30日までに学士の学位を取得見込みの者とは、学位規則第6条第1項の規定に基づき、平成22年4月までに大学評価・学位授与機構に学位の授与を申請した者です。

[注2] (8)の対象となる者の要件は以下のa)とb)です。

- a) 平成22年3月末（3年次）の時点で、当該志願者の所属学科（あるいはこれに準ずる成績判定単位）における成績順位が上位5%以内であること、または、総修得単位の3/4以上が最上位の評価（点数評価の場合は満点の8割以上）であること
- b) 原則として、2年次修了までに必要な全ての必須科目に合格し、かつ、90単位以上を修得していること

[注3] (10)の対象となる者は、主として「短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者など、大学卒業資格を有していない者」です。

[注4] (8)によって、出願を希望する者は、事前審査を行うため、4頁の①～⑤を平成22年5月24日（月）から5月26日（水）までに本学環境情報研究院等学務係に提出してください。また、郵送の場合は、平成22年5月26日（水）までに**書留郵便**で送付してください（**期間内必着**）。ただし、日本国内の発信日が平成22年5月25日（火）の場合は**書留速達**にして下さい。

- ①出願資格認定申請書（書式5）
 - ②出願資格証明および推薦書（書式8）
 - ③成績証明書
 - ④当該大学の履修基準を示す書類あるいはその写し
 - ⑤350円の切手を添付した住所（国内）、氏名、郵便番号を記入した長形3号の封筒
- 書式5および書式8は本要項綴じ込みの用紙を使用してください。

審査の結果については、平成22年6月11日（金）までに本人宛に通知します。なお、平成22年6月11日（金）以降、本学環境情報研究院等学務係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時および13時～16時です。

[注5] (9)～(13)によって、出願を希望する者は、事前審査を行うため、下記の①～⑥を平成22年5月24日（月）から5月26日（水）までに本学環境情報研究院等学務係に提出してください。また、郵送の場合は、平成22年5月26日（水）までに**書留郵便**で送付してください（**期間内必着**）。ただし、日本国内の発信日が平成22年5月25日（火）の場合は**書留速達**にして下さい。

- ①出願資格認定申請書（書式5）
- ②出願資格認定調書（書式6）
- ③最終学歴の卒業証明書または在学期間証明書
- ④最終学歴の成績証明書
- ⑤研究経験および研究業績書 [様式は任意]
- ⑥350円の切手を添付した住所（国内）、氏名、郵便番号を記入した長形3号の封筒

書式5は本要項綴じ込みの用紙を使用してください。書式6についてはⅧ章（50頁）を参照してください。

審査の結果については、平成22年6月11日（金）までに本人宛に通知します。なお、平成22年6月11日（金）以降、本学環境情報研究院等学務係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時および13時～16時です。

[注6] (8)～(13)によって、出願を希望する者で工学府を併願する場合には、本学府のほかに工学府の事前審査も必要となりますので、工学府の募集要項を参照の上、工学府の事前審査も受けてください。

2. 募 集 人 員

専 攻	コ ー ス	募 集 人 員
環境生命学	地球環境	若 干 名
	生命環境	
環境システム学	マテリアルシステム	若 干 名
	システムデザイン	
情報メディア環境学	情報メディア学	若 干 名
	環境数理解析学	
環境イノベーションマネジメント		若 干 名
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	若 干 名
	セイフティマネジメント	
計		若 干 名

[注] 募集人員には、各専攻とも若干名の外国人留学生および若干名の社会人特別選抜による募集人員を含みます。

3. 出 願 期 間

平成22年6月21日(月)から6月24日(木)まで、書留郵便による郵送受付

出願書類の受付は日本国内から郵送のみです。郵送は**書留郵便**とし、本学府所定の封筒（志望専攻名を記入）を使用し、平成22年6月24日（木）までに、本学環境情報研究院等学務係へ

郵送してください。受付期限後到着のものは受理しませんので、郵便事情等を十分考慮して早目に送付してください。ただし、日本国内の発信日が平成22年6月23日(水)の場合は、**書留速達**にして下さい。

なお、あらかじめ必ず志望指導教員とよく相談して願書を郵送してください。志望指導教員がわからない場合は、表紙裏面に示す各専攻・コースの教員へお問い合わせください。

4. 出願手続

(1) 出願する人は、下記の書類に入学検定料を添えて本学府所定の封筒を使用し、志望専攻名を記入の上、本学環境情報研究院等学務係に郵送してください。

日本語または英語以外の証明書については、日本語訳または英語訳を添付してください。

なお、書式1、書式3、書式4、書式10についてはⅧ章(50頁)を参照してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
入学願書	用紙は本学府交付のもの。	1
卒業(見込)証明書	出身大学作成のもの(出願資格(8)で出願する者は在学証明書)ただし、外国人留学生でやむを得ず卒業証書の写をもって代える場合は必ず卒業証書を事前に受付窓口に呈示してください。	—
成績証明書	出身大学(在籍大学)の学長または学部長が作成したもの。	—
写真	縦4cm、横3cmのもの2枚(出願前3か月以内に撮影したもの)。写真は受験票および入学願書に貼付してください。	—
入学検定料	<p>払込金額：30,000円。 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込場所：郵便局・ゆうちょ銀行の受付窓口(ATMは使用不可) [注1]「払込書」の※に、入学志願者(本人)の住所・氏名・電話番号を黒または青のボールペンで正確に記入してください。 [注2]「払込金受領証」および「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。 [注3]入学検定料が払い込まれていない場合または払込済の「郵便振替払込受付証明書」が所定の貼付用紙(書式10)の欄に貼り付けていない場合は出願を受理しません。 [注4]日本政府(文部科学省)国費留学生は不要です(出願の際、必ず国費給与証明書を同封してください)。</p>	10
返信用封筒(2通)	長形3号の封筒に住所(国内)、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(350円)を貼付し、 2通 提出してください。	—
住所氏名記入用紙(シール)	用紙は本学府交付のもの。住所(国内)、氏名、郵便番号を記入してください。	—
登録原票記載事項証明書	登録原票記載事項証明書(出願前3か月以内に交付されたもの)または入国査証の写し。ただし、外国人のみです。	—
履歴書	用紙は本学府交付のもの。ただし、外国人(出願資格(1)は除きます)のみです。	3
研究(希望)計画書	これまでに行った研究の概要とこれから本学府で行いたい研究への抱負や研究(希望)計画を1,000字以内で記載したもの。	4
その他	推薦書があれば添付してください。	—

(2) 特別選抜の追加提出書類

特別選抜の受験希望者は上記の書類に加えて、以下の書類を提出してください。

出願書類等	注 意 事 項	書式番号
志望理由書	教育研究分野を選んだ理由、現在までの学業との関係および入学後の研究計画をA4版用紙1頁にまとめたもの。氏名と共に、志望の専攻、コース、分野、および、教員氏名を記入してください。作成に際しては志望する分野の教員に問い合わせてください。	—
特別選抜資格証明書 特別選抜推薦書	成績順位の記述、または、成績順位を出していないことおよび総単位に占める最上位の評語が1/2以上の記述があること。出願資格証明書。用紙は本学交付のものを使用し、厳封してください。ただし、本学府研究生として在籍している国費外国人留学生は不要です。 【その他推薦状の添付は任意】	7-1 7-2
特別選抜入学締約書	用紙は本学府交付のもの。	9

(3) 提出書類の免除

出願資格(8)～(13)による出願予定者は、資格認定時に提出した書類と重複する書類の再提出を免除します。

5. 選 抜 方 法

選抜は**特別選抜**または**筆記試験等選抜**のいずれかによって行います。手順については7頁の図を参照してください。

特別選抜は第1志望のみですが、筆記試験等選抜では、第2志望を選ぶことができます。

(1) 特別選抜と筆記試験等選抜がある場合

1. 試験方法の選択

学力検査のうち、特別選抜と筆記試験等選抜のいずれかを選択してください。

特別選抜を選択できる者は、次の①、②のいずれかに該当する者

- ① 大学出身者(高等専門学校専攻科含む)または卒業見込者で、出身大学内での**成績順位が上位1/3以内**の者

なお、成績順位を出していない大学からの出願者は、総修得単位に占める**最上位の評語が1/2以上**の者

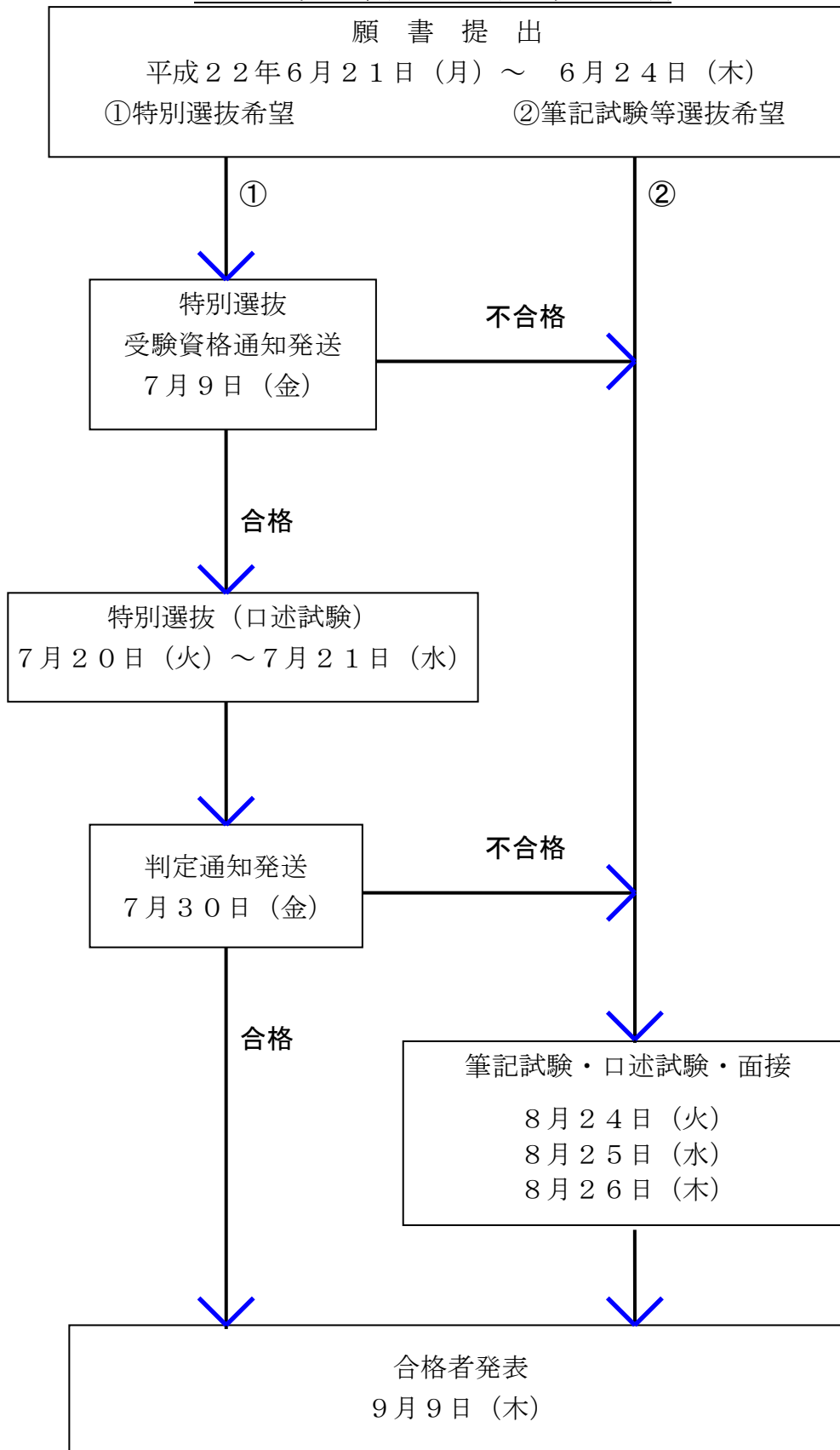
- ② 本学府研究生として在籍している**国費外国人留学生**(本学府研究生受入予定の日本語予備教育者含む)

2. 受験資格の決定

出願時に提出した特別選抜と筆記試験等選抜の選択に基づき、出願書類によって受験資格を決定します。出願有資格者のうち、特別選抜の有資格者とならなかった人は筆記試験等選抜を受験することができます。筆記試験等選抜の試験区分は出願時に申請してください。さらに、工学府を第2志望とする場合は、工学府の受験資格を決定します。工学府の受験資格に関しては、工学府の募集要項を参照してください。

結果は、平成22年7月9日(金)に受験票とあわせて本人宛に発送します。

特別選抜と筆記試験等選抜の手順



3. 特別選抜

口述試験による学力検査、出願書類審査によって行います。なお、学力検査で不合格の判定を受けた人は筆記試験等選抜で受験することができます。

4. 筆記試験等選抜

筆記試験または筆記試験・口述試験による学力検査、出願書類審査、面接によって行います。

筆記試験等選抜における、環境情報学府の分野と選択可能な試験区分との関係は次頁の表を参照してください。また、分野によっては工学府の試験区分を選択できます。

(10頁の表参照)

学力検査後、面接Ⅰがあります。第2志望を申請した人については、必要が生じた場合、面接Ⅰに続いて面接Ⅱがあります。

出願資格(8)による出願者でこの試験に合格した人は、3年次までの成績証明書を基に最終的な合否を決定します。

6. 試験区分

筆記試験等選抜で受験するときは、**受験する試験区分を選択します。**

教育・研究内容が多岐にわたるため、環境イノベーションマネジメント専攻以外では、専攻またはコース内の指導教員を教育・研究内容に基づいて分野に分け、番号を付けています。分野によって選択できる試験区分が指定されています。

志望する分野が指定する試験区分の中から、1つ選んで志願時に申請してください。

申請した試験区分と異なる試験区分で受験することはできません。

試験区分が同じときは、第2志望を選ぶことができます。分野が指定する試験区分との関係は次頁【分野と本学府の試験区分】の表で確認して第1志望1つと第2志望1つを出願時に申請してください。

分野によっては工学府で用意する上記以外の試験区分を選ぶことができます(10頁の表を参照してください)。この場合、工学府の指定されたコースを第2志望に選ぶことができます。

なお、工学府を第2志望に選ぶときは工学府の受験資格を満たしている必要があります。工学府の受験資格に関しては**工学府の募集要項を参照してください。**

工学府で用意する試験区分を選んだ場合には、筆記試験は、工学府試験場で受験し、面接Ⅰは、環境情報学府試験場で受験することになります。

[備考] 工学府を第1志望として環境情報学府を第2志望に選ぶことも可能です。詳しくは、**工学府の募集要項を参照してください。**

分野と本学府の試験区分

専攻	コース	分野	試験区分コードと試験区分							
			H A 1 環境生命学	H B 1 環境システム学1	H B 2 環境システム学2	H C 1 情報数理	H C 2 言語学	H E 1 イノベーションマネジメント	H F 1 環境リスクマネジメント	
環境生命学	地球環境、生命環境	1	○							○
		2	○							
環境システム学	マテリアルシステム	1		○						
		2		○	○					
	システムデザイン	1-4			○					
情報メディア環境学	情報メディア学	1				○				
		2				○				
		3				○	○			
		4				○				
		5				○				
	環境数理解析学	1			○	○				
2					○					
環境イノベーションマネジメント		1							○	
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	1							○	○
	セイフティマネジメント	2								○

[注] 分野によっては、上記以外に、工学府の試験区分を選択することができます。
(次頁の表を参照) **工学府の学生募集要項を熟読して下さい。**

7. 検査科目の日時、場所

(1) 特別選抜の日程

平成22年7月20日(火)および7月21日(水)に実施します。口述試験日程や口述試験内容は専攻ごとに異なります。専攻ごとの口述試験案内を参照してください。

日時・場所は平成22年7月9日(金)13時ごろ環境情報学府掲示板に掲示するとともに本人宛に発送します。

(2) 筆記試験等選抜の日程

学力検査は平成22年8月24日(火)から8月26日(木)までに実施します。学力検査日程や学力検査内容は専攻ごとに異なります。専攻ごとの学力検査案内を参照してください。

筆記試験、口述試験、面接の場所および口述試験や面接の日程等は平成22年8月9日(月)13時ごろ環境情報学府掲示板に掲示すると共に本人宛に発送します。

選択可能な工学府の試験区分

			工学府の試験区分コードと試験区分								
			G A 5	G A 6	G B 1	G B 2	G B 4	G C 1	G C 2	G D 1	G D 2
			先端物質化学	物質とエネルギーの創生工学	機械システム工学	海洋宇宙システム工学	材料設計工学	建設システム工学	建築学	電気電子ネットワーク	物理工学
専攻	コース	分野									
環境生命学	地球環境、生命環境	1		○							
		2	○	○							
環境システム学	マテリアルシステム	1	○	○	○		○				
		2	○	○	○		○				
	システムデザイン	1			○						
		2				○					
		3							○		
		4						○			
情報メディア環境学	情報メディア学	1								○	
		2			○		○			○	○
		3									
		4								○	○
		5									
	環境数理解析学	1			○		○			○	
2				○					○	○	
環境イノベーションマネジメント		1									
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	1									
	セイフティマネジメント	2							○		

8. 合格者発表

平成22年9月9日(木)16時ごろ環境情報学府掲示板に掲示するとともに、郵便で合格者には通知します。なお、電話による照会には応じません。

9. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円

[注] 一度納入した入学料は、いかなる理由があっても一切返還しません。

(2) 授業料 半期分 267,900円 (年額 535,800円)

[注1] (1), (2)とも、入学手続期間：**平成22年9月14日(火)～16日(木)**に納入してください。詳細は、手続き書類と一緒に送付します。

[注2] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

[注3] 詳細は、入学手続書類と一緒に送付します。

10. 注 意 事 項

- (1) 口述試験（特別選抜）、筆記試験・口述試験・面接（筆記試験等選抜）には必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願手続後の提出した書類の内容変更は認めません。
- (3) 出願書類の記載事項に記入もれやその他の不備がある場合は、出願書類は受理しません。
- (4) 一度納入した入学検定料および提出した書類は、いかなる理由があっても一切返付しません。検定料の返還請求ができる場合は、「出願をしなかった」または、「検定料を二重に払い込んだ」場合で、返還請求方法は、返還請求願・返還請求理由書・郵便振替払込受付証明書（お客様用）が必要です。環境情報学府学務係へ問い合わせください。
- (5) 官公庁または会社等に在職している者は、入学手続の際、その長または代表者の就学承認書を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (6) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒（住所、氏名を明記し、80円切手を貼付）または返信用はがきを同封し、本学環境情報研究院等学務係あてに照会してください。ただし、掲示内容に関する問い合わせには応じません。
- (7) 各専攻から課された **入学試験科目の1科目でも受験しなかった場合は、不合格** となりますので注意してください。
- (8) 過去の入学試験問題（筆記試験の問題のみ）の閲覧は、本学理工学系研究図書館において行うことができます。（入学試験問題はコピー可、ただし身分証明書が必要）
理工学系研究図書館での閲覧時間は、平日が9:00～21:45、土・日曜日・祝日が13:30～16:30です。ただし、8月1日～9月30日は平日が9:00～17:00、土・日曜日が休館となります。
（8月12日～8月20日は休館）
なお、理工学系研究図書館が平日で休館の場合は、環境情報研究院等学務係で行うことができます。閲覧時間は、10:00～16:30となります。（8月中旬の平日の1日間、学務係の窓口が休業になる予定ですので、その頃に来学される場合は、事前にお問い合わせください）
- (9) 留学資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (10) 身体に障害のある入学者の事前相談について
該当する者（出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む）は、受験及び修学上特別な措置を必要とすることが起こり得ますので、出願する前に必ず環境情報研究院等学務係へ次の様式により事前に相談してください。
なお、下表から判断できない場合については、問い合わせください。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので、補聴器等の使用によっても通常の和声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規則を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

ふりがな
氏 名
生年月日
住 所 〒
電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学府・専攻・コース
2. 身体の障害の種類、程度
3. 受験に際しての希望する受験特別措置
4. 入学後の修学に際して希望する特別措置
5. そ の 他

(添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料

1 1. 環境生命学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月20日(火) ～7月21日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日 時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月24日(火)	外 国 語	9時00分～10時00分
	学 科 試 験 I	10時30分～12時30分
	学 科 試 験 II	13時30分～
8月25日(水)	日 本 語 *	9時00分～10時00分
	面 接 I	14時00分～
8月26日(木)	面 接 II**	14時00分～

* 工学府の試験区分を選択する外国人（日本の大学を卒業または卒業見込の者を除く）のみ

** 工学府との併願の場合のみ面接IIを行います。

- ・外国語、学科試験Iは筆記試験です。
- ・学科試験IIは口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Iおよび学科試験IIの解答に英語を使うことを認めます。

2. 指導教員および試験区分

コース	分野	指導教員	指定の試験区分（試験区分コード）
地球環境	1	雨宮 隆、大野啓一 持田幸良、有馬 眞 石川正弘、菊池知彦 間嶋隆一、原田 洋 中森泰三、酒井暁子 森 章	環境生命学（HA1） 物質とエネルギーの創生工学+リフレッシュ教育（GA6） 環境リスクマネジメント（HF1）
生命環境	2	平塚和之、笹本浜子 中村達夫、松本真哉 横山幸男、谷生重晴 栗原靖之、大谷裕之 尾形信一、本田 清 鈴木 敦、塩見美喜子 岡野ジェイムス洋尚	環境生命学（HA1） 先端物質化学（GA5） 物質とエネルギーの創生工学+リフレッシュ教育（GA6）

分野1の指導教員を志望した場合には、試験区分としてGA6を選択すれば、本学工学府のエネルギーの創生工学+リフレッシュ教育コースを第2志望とすることができます。また、分野2の指導教員を志望した場合には、試験区分としてGA5またはGA6を選択すれば、本学工学府の先端物質化学コースまたは物質とエネルギーの創生工学+リフレッシュ教育コースを第2志望とすることができます。

その場合、工学府の学生募集要項を熟読して下さい。

3. 試験区分

下記の試験区分の中から、志望する指導教員が属する分野が指定する試験区分を、1つ選んでください。

◎試験区分：環境生命学（試験区分コード：HA1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	生態学領域、地球科学領域、生命科学領域、応用化学領域のうち志望先指導教員の領域に関する小論文または総合問題（200点）
学科試験Ⅱ	希望する研究分野に関する口述試験（200点）

[受験上の注意]

学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

◎試験区分：環境リスクマネジメント（試験区分コード：HF1）

試験科目	出題内容等(配点)
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	数学・力学系科目（①線形代数学、②微分方程式、③基礎統計学、④材料力学） 化学・工学系科目（⑤物理化学、⑥無機化学／分析化学、⑦有機化学／生化学、⑧安全工学、⑨環境工学、⑩化学工学） 生物・生態学系科目（⑪基礎生物学、⑫基礎生態学、⑬生物分類地理学／系統進化学、⑭保全生態学） 社会・計画系科目（⑮法学基礎、⑯環境政策論、⑰環境保健学、⑱都市防災計画、⑲都市環境工学） の合計19題のうちから3題を選択（200点）
学科試験Ⅱ	環境管理制度、化学物質・生態系・都市環境リスク、産業安全など、生命環境マネジメントやセイフティマネジメントに関連した小論文形式の問題数題から2題を選択（200点）

*この試験区分で受験を希望する場合は、あらかじめ環境生命学専攻、あるいは環境リスクマネジメント専攻の学務委員に連絡して下さい。

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

12. 環境システム学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試験科目	時 間
7月20日(火) ～7月21日(水)	口述試験	10時00分～

2. 検査科目

試験科目	出題内容等
口述試験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試験科目	時 間
8月24日(火)	外 国 語	9時00分～10時00分
	学 科 試 験 Ⅰ	10時30分～12時30分
	学 科 試 験 Ⅱ	13時30分～15時30分
8月25日(水)	日 本 語 *	9時00分～10時00分
	学 科 試 験 Ⅱ **	10時00分～
	面 接 Ⅰ	14時00分～

8月26日(木)	面接Ⅱ***	14時00分～
----------	--------	---------

- * 工学府の試験区分を選択する外国人（日本の大学を卒業または卒業見込の者を除く）のみ
- ** 学科試験Ⅱは、通常、8月24日（火）に行いますが、志願者が多数の時は口述試験を8月24日（火）と25日（水）の両日で行います。
- *** 面接Ⅰで必要が生じた場合のみ面接Ⅱを行います。

- ・外国語、学科試験Ⅰは筆記試験です。
- ・学科試験Ⅱは筆記試験または口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰおよび学科試験Ⅱの解答に英語を使うことを認めます。
- ・学科試験Ⅰおよび学科試験Ⅱに限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。

2. 教育研究分野と指導教員および試験区分

志望する分野が指定する試験区分を選択しなければなりません。**なお、試験区分の選択に際しては、あらかじめ志望先指導教員とよく相談する必要があります。**

コース	分野	指導教員	指定の試験区分（試験区分コード）
マテリアルシステム	1	目黒竹司, 奥谷 猛, 多々見純一, 荒牧賢治, 脇原 徹	環境システム学1 (HB1) 先端物質化学 (GA5)* 機械システム工学 (GB1)* 物質とエネルギーの創生工学 材料設計工学 (GB4)* +リフレッシュ教育 (GA6)*
	2	鈴木淳史, 中野 健	環境システム学1 (HB1) 先端物質化学 (GA5)* 環境システム学2 (HB2) 物質とエネルギーの創生工学 機械システム工学 (GB1)* +リフレッシュ教育 (GA6)* 材料設計工学 (GB4)*
[注] システムデザイン	1	森下 信, 白石俊彦	環境システム学2 (HB2) 機械システム工学 (GB1)*
	2	上野誠也, 村井基彦	環境システム学2 (HB2) 海洋宇宙システム工学 (GB2)*
	3	吉田 聡	環境システム学2 (HB2) 建築学 (GC2)*
	4	山田 均, 細田 暁	環境システム学2 (HB2) 建設システム工学 (GC1)*

*印の試験区分は、本学工学府の指定のコースを第2志望とすることができます。

[注] 分野が指定する工学府の試験区分については、10頁の表を参照してください。

工学府の学生募集要項を熟読して下さい。

3. 試験区分

分野が指定する試験区分をいずれか1つ選んでください。また、試験区分によっては、指定された工学府のコースを第2志望とすることができます。

◎試験区分：環境システム学1（試験区分コード：HB1）

試験科目	出題内容等（配点）
★外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	数学（2題）、物理化学（1題）、有機化学、無機化学、力学（1題）、熱学・統計力学、金属材料学の合計8題の中から4問題を選択。ただし数学1題を含む。（200点）
学科試験Ⅱ	口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

備考：試験区分として環境システム学1を選ぶと、本専攻を第1志望とし、本学工学府の物質エネルギー安全工学コースを第2志望に選択することができます。

◎試験区分：環境システム学2（試験区分コード：HB2）

試験科目	出題内容等（配点）
★外国語	（100点）
学科試験Ⅰ	基礎数学2題（線形代数、微分方程式）、力学2題（材料力学、剛体力学） 概論的記述問題2題（機械工学系、海洋宇宙工学系）1、2分野から各1題出題、上記の全6題から4題選択 （1題50点）
学科試験Ⅱ	システムデザインコースの専門分野から4題出題全4題から2題選択 （1題100点）

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

◎試験区分：工学府建築学（試験区分コード：GC2）

外国語 09：00-10：00	100点	英語
学科試験Ⅰ 10：30-13：00	70点×5科目 350点 → 200点*	建築史・建築芸術、建築計画、建築材料構法、建築構造力学、建築環境工学、都市計画、建築構造学、環境管理計画学、の8教育分野から、第1志望教育分野に関する科目（環境管理計画学）を含め5科目選択すること。
学科試験Ⅱ 14：00-15：00	150点 → 200点*	建築史・建築芸術、建築計画、建築材料構法、建築構造力学、建築環境工学、都市計画、建築構造学、環境管理計画学、の8教育分野から、第1志望教育分野に関する1科目（環境管理計画学）を選択すること。

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

- ・GC2の得点を上表(*)のように学科試験Ⅰ(200点)、学科試験Ⅱ(200点)に換算します。

備考：試験区分としてGC2（建築学）を選ぶと、環境システム学専攻システムデザインコース研究分野3を第1志望とし、本学工学府の建築学コースを第2志望に選択することができます。第2志望先教員と事前にコンタクトを取り、工学府募集要項を熟読すること。

- ★ 外国語（英語）（HB1・HB2 共通）英語の試験は、「TOEIC、TOEFL のスコアを用いる」か、「学府共通の英語（英語で解答する問題）を受験するか」のいずれか一方を、出願時に選択する。

[TOEIC、TOEFL スコアを選択する場合]

- TOEIC のスコアは下記の関係を用いて、100点満点に換算し英語の点数とする。

換算方法 (TOEIC ベース)

TOEIC	～349	350～500	500～800	801～
換算法	0	(TOEIC-350) / 3	(TOEIC-500) / 6+50	
外国語	0点	0～50点	50～100点	100点

- 英語の試験で TOEIC、TOEFL のスコアを選択した受験生は、学科試験当日にスコアのうちのベストの成績証明書またはスコアシートを提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは発行から3年以内のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。
- TOEIC と TOEFL の換算に関しては、TOEFL の得点は、以下の方法により TOEIC の得点に換算する。
 - TOEFL-iBT, TOEFL-CBT の得点は ETS のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算。
 - TOEFL-PBT の得点は、
 $(\text{TOEFL-PBT 得点} - 296) \div 0.348 = \text{TOEIC 得点}$
 により TOEIC の得点に換算。

[学府共通の英語の試験を受験を選択した場合]

- 所定の外国語の試験問題にて外国語を受験すること。

1.3. 情報メディア環境学専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月20日(火)～7月21日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月24日(火)	外 国 語	9時00分～10時00分
	学 科 試 験 I	10時30分～12時30分
	学科試験II (HC1, HC2)	13時30分～
	学科試験II (HC1, HC2以外)	13時30分～15時30分

8月25日(水)	日本語*	9時00分～10時00分
	学科試験Ⅱ(HC1, HC2)**	10時00分～
	面接Ⅰ	14時00分～
8月26日(木)	面接Ⅱ***	14時00分～

* 工学府の試験区分を選択する外国人(日本の大学を卒業または卒業見込の者を除く)のみ

** 学科試験Ⅱ(HC1, HC2)は、通常、8月24日(火)に行いますが、志願者が多数の時は口述試験を8月24日(火)と25日(水)の両日で行います。

*** 面接Ⅰで必要が生じた場合のみ面接Ⅱを行います。

- ・外国語、学科試験Ⅰは筆記試験です。
- ・学科試験Ⅱは筆記試験または口述試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰおよび学科試験Ⅱの解答に英語を使うことを認めます。
- ・学科試験Ⅰに限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・電卓を持ち込むことはできません。

2. 分野と指導教員および分野が指定する試験区分

特別選抜の検査科目の選択に際しては、VI博士課程前期概要の担当教員の研究内容を参考にして、表から志望の分野を選んでください。さらに、分野が指定する試験区分の中から受験する試験区分を選んでください。

コース	分野	指導教員	指定の試験区分(試験区分コード)
情報メディア学	1	長尾智晴、森 辰則	情報数理 (HC1)
		富井尚志	電気電子ネットワーク (GD1)*
	2	後藤敏行、岡嶋克典	情報数理 (HC1)
			機械システム工学 (GB1)*
			材料設計工学 (GB4)*
3	マーティン・ロジャー 藤井友比呂	電気電子ネットワーク (GD1)*	
		物理工学コース (GD2)*	
4	松本 勉、四方順司	情報数理 (HC1)	
		電気電子ネットワーク (GD1)*	
5	有澤 博、田村直良 齊藤知行*** 竹林茂生*** 根本明宜***	言語学 (HC2)	
		情報数理 (HC1)	
4	松本 勉、四方順司	物理工学コース (GD2)*	
		電気電子ネットワーク (GD1)*	

環境 数理 解析 学	1	山田貴博、白崎 実 酒井 讓、松井和己	情報数理 (HC 1) 環境システム学2 (HB 2) ** 材料設計工学 (GB 4) * 機械システム工学 (GB 1) * 電気電子ネットワーク (GD 1) *
	2	有光直子、寺田敏司 平野載倫、根上生也 野間 淳、中本敦浩 西村尚史、原下秀士	情報数理 (HC 1) 機械システム工学 (GB 1) * 電気電子ネットワーク (GD 1) * 物理工学コース (GD 2) *

* 印の試験区分は、本学工学府の指定のコースを第2志望とすることができます。

* 物理工学コースGD 2は、物理学系と数学系に限ります。【願書の試験区分コードの下に〇〇系と書くこと】

* **工学府の学生募集要項を熟読して下さい。**

** 試験区分：「環境システム学2」を参照してください。

***印の医用情報は他の機関に所属する連携教員が指導します。この分野を志望する場合は、表紙裏面に記載されている本専攻の教員に相談してください。

3. 試験区分

◎試験区分：情報数理（試験区分コード：HC 1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	アルゴリズム、メディア情報処理（情報理論）、計算機システム、情報数学、微分積分学、線形代数学より3題解答（300点）
学科試験Ⅱ	関連分野に関する問題（100点）

・外国語、学科試験Ⅰは筆記試験です。学科試験Ⅱは口述試験です。

◎試験区分：言語学（試験区分コード：HC 2）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	「生成文法理論」、「統語理論」、「形態と意味」3題から2題解答（300点）
学科試験Ⅱ	志望する分野に関する問題（100点）

・外国語、学科試験Ⅰは筆記試験です。学科試験Ⅱは口述試験です。

1 4. 環境イノベーションマネジメント専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日 時

期 日	試験科目	時 間
7月20日(火) ～7月21日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試験科目	出題内容等
口述試験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試験科目	時 間
8月24日(火)	外国語	9時00分～10時00分
	学科試験Ⅰ	10時30分～12時30分
	学科試験Ⅱ・面接Ⅰ	13時30分～
8月26日(木)	面接Ⅱ*	14時00分～

* 面接Ⅰで必要が生じた場合のみ面接Ⅱを行います。

・外国語、学科試験Ⅰは筆記試験です。

[受験に際しての指示事項]

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰの解答に英語を使うことを認めます。
- ・学科試験Ⅰのみ語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。

2. 試験区分：イノベーションマネジメント（試験区分コード：HE1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	環境マネジメント、経済学、経営学、社会と人間活動、メディア学の5分野から1分野を選択・解答（200点）
学科試験Ⅱ	希望する教育研究分野に関する基本事項、研究（希望）計画に関する事項の口述試験（200点）

[受験上の注意] ・電卓を持ち込むことはできません。

3. 指導教員および指定する試験区分

指導教員	指定の試験区分（試験区分コード）
近藤正幸 志田基与師 三井逸友 周佐喜和 竹田陽子 梅本洋一 室井 尚 本藤祐樹 長谷部英一 宮崎 隆 安藤孝敏 安本雅典 鳴海大典 萩原一平 吉村哲哉	イノベーションマネジメント (HE1)

15. 環境リスクマネジメント専攻の学力検査日程と学力検査内容

(1) 特別選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
7月20日(火) ～7月21日(水)	口 述 試 験	10時00分～

2. 検査科目

試 験 科 目	出 題 内 容 等
口 述 試 験	英語、基礎科目、専門科目に関する事項

(2) 筆記試験等選抜

1. 日時

期 日	試 験 科 目	時 間
8月24日(火)	外 国 語	9時00分～10時00分
	学 科 試 験 I	10時30分～12時30分
	学 科 試 験 II	13時30分～15時30分
8月25日(水)	日 本 語 *	9時00分～10時00分
	面 接 I	14時00分～
8月26日(木)	面 接 II**	14時00分～

* 工学府の試験区分を選択する外国人（日本の大学を卒業または卒業見込の者を除く）のみ

** 面接Iで必要が生じた場合のみ面接IIを行います。
外国語、学科試験I、学科試験IIは筆記試験です。

受験に際しての指示事項：

- ・筆記試験の受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験Ⅰおよび学科試験Ⅱの解答に英語を使うことを認めます。

2. 指導教員および指定する試験区分

コース	分野	指導教員	指定の試験区分（試験区分コード）
生命環境(マ)	1	益永茂樹、藤江幸一 松田裕之、中井里史 金子信博、中村栄子 小池文人、及川敬貴 亀屋隆志、大矢 勝 川本克也、嘉田良平	環境リスクマネジメント（HF1） イノベーションマネジメント（HE1）
セイフティ(マ)	2	大谷英雄、佐土原聡 三宅淳巳、岡 泰資 小林 剛、笠井尚哉 澁谷忠弘、熊崎美枝子 松宮正彦、座間信作 野口和彦	環境リスクマネジメント（HF1） 建築学（GC2）*

試験区分建築学を選択すると、本学工学府の建築学コースを第2志望とすることができます。

***工学府の学生募集要項を熟読して下さい。**

3. 試験区分

◎試験区分：環境リスクマネジメント（試験区分コード：HF1）

試験科目	出題内容等(配点)
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	数学・力学系科目（①線形代数学、②微分方程式、③基礎統計学、④材料力学） 化学・工学系科目（⑤物理化学、⑥無機化学／分析化学、⑦有機化学／生化学 ⑧安全工学、⑨環境工学、⑩化学工学） 生物・生態学系科目（⑪基礎生物学、⑫基礎生態学、⑬生物分類地理学／系統進化学 ⑭保全生態学） 社会・計画系科目（⑮法学基礎、⑯環境政策論、⑰環境保健学、⑱都市防災計画、 ⑲都市環境工学） の合計19題のうちから3題を選択（200点）
学科試験Ⅱ	環境管理制度、化学物質・生態系・都市環境リスク、産業安全など、生命環境マネジメントやセイフティマネジメントに関連した小論文形式の問題数題から2題を選択（200点）

[受験上の注意]

- ・学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

◎試験区分：イノベーションマネジメント（試験区分コード：HE1）

試験科目	出題内容等（配点）
外国語	英語（100点）
学科試験Ⅰ	環境マネジメント、経済学、経営学、社会と人間活動、メディア学の5分野から1分野を選択・解答（200点）
学科試験Ⅱ	希望する教育研究分野に関する基本事項、研究（希望）計画に関する事項の口述試験（200点）

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。

環境リスクマネジメント学専攻セイフティマネジメントコース

◎試験区分：工学府建築学（試験区分コード：GC2）

外国語 09：00-10：00	100点	英語
学科試験Ⅰ 10：30-13：00	70点×5科目 350点 → 200点*	建築史・建築芸術、建築計画、建築材料構法、建築構造力学、建築環境工学、都市計画、建築構造学、環境管理計画学、の8教育分野から、第1志望教育分野に関する科目（環境管理計画学）を含め5科目選択すること。
学科試験Ⅱ 14：00-15：00	150点 → 200点*	建築史・建築芸術、建築計画、建築材料構法、建築構造力学、建築環境工学、都市計画、建築構造学、環境管理計画学、の8教育分野から、第1志望教育分野に関する1科目（環境管理計画学）を選択すること。

[受験上の注意]

- ・電卓を持ち込むことはできません。
- ・GC2の得点を上表(*)のように学科試験Ⅰ（200点）、学科試験Ⅱ（200点）に換算します。

備考：試験区分としてGC2（建築学）を選ぶと、環境リスクマネジメント専攻セイフティマネジメントコースを第1志望とし、本学工学府の建築学コースを第2志望に選択することができます。第2志望先教員と事前にコンタクトを取り、工学府募集要項を熟読すること。

- ★ 外国語（英語）（HF1）の試験は、「TOEIC、TOEFL のスコアを用いる」、「英語の筆記試験を受験する」のいずれか一方を、志望指導教員と十分相談の上、出願時に選択する。

[TOEIC、TOEFL スコアを選択する場合]

- ・ TOEIC のスコアは下記の関係を用いて、100点満点に換算し英語の点数とする。

換算方法（TOEIC ベース）

TOEIC	～349	350～500	500～800	801～
換算法	0	(TOEIC-350) / 3	(TOEIC-500) / 6+50	
外国語	0点	0～50点	50～100点	100点

- ・ 英語の試験で TOEIC、TOEFL のスコアを選択した受験生は、学科試験当日にスコアのうちベストの成績証明書またはスコアシートを提出すること。なお、提出可能な成績証明書・スコアシートは発行から3年以内のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点と見なす。
- ・ TOEIC と TOEFL の換算に関しては、TOEFL の得点は、以下の方法により TOEIC の得点に換

算する。

- TOEFL-iBT, TOEFL-CBT の得点は ETS のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算。
- TOEFL-PBT の得点は、
 $(\text{TOEFL-PBT 得点} - 296) \div 0.348 = \text{TOEIC 得点}$
により TOEIC の得点に換算。

[英語の筆記試験の受験を選択した場合]

- 所定の外国語の試験時間にて、本専攻指定の英語筆記試験（英語を母国語とする者を対象とした試験）を受験すること。

Ⅲ 平成22年度10月入学 博士課程前期 社会人特別選抜 学生募集要項

1. 趣 旨

本学府においては、社会人の継続研修および再教育の場を提供するとともに、それを橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することを目的として、その門戸を社会に向けて開放しています。その一環として、社会人の勉学を容易にするために、社会人を対象として大学院設置基準第14条に定める特例（IV章を参照）による教育を実施するとともに、ここに掲げる特別選抜制度を実施して社会人の就学の便を図っています。

また、長期履修を希望する社会人に対し、授業料の便宜を図る長期履修学生制度（V章を参照）を設けています。

2. 出 願 資 格

次の（A）、（B）、（C）のいずれかに該当する者で、かつ（1）、（2）とも満たす者

（A）官公庁、会社、非営利団体等に正規職員として1年以上勤務し、平成22年9月30日に在職期間が1年以上となり、かつ、入学後も同一職場内での身分を有する者

（B）官公庁、会社、非営利団体等から推薦を受けて派遣され、かつ、入学後も同一職場内での身分を有する者

（C）その他、本学府が社会人として認めた者^[注1]

（1）3頁「1. 出願資格」の（1）～（13）により、学士の学位を有する者（平成22年9月30日までに取得見込みの者）または本学府が認めた者^[注2]

（2）学部教育として、志望の専攻と関連系統の専門教育を受けている者

◎ 社会人特別選抜として出願する者は、出願資格審査があります。

下記の①～④を平成22年5月24日(月)から5月26日(水)までに本学環境情報研究院等学務係に提出してください。また、郵送の場合は、平成22年5月26日(水)までに書留郵便で送付してください(**期間内必着**)。ただし、日本国内発信日が平成22年5月25日(火)の場合は、書留速達にして下さい。

①出願資格認定申請書（書式5）

②履歴書（様式は任意）

③推薦書（ただし、上記出願資格（B）に該当する者のみ）

④350円切手(速達料金を含む)を貼付した住所（日本国内）および氏名明記の返信用封筒（長3）

なお、書式5についてはVIII章を参照してください。

審査の結果については、平成22年6月11日(金)までに本人宛に通知します。

なお、平成22年6月11日(金)以降、本学環境情報研究院等学務係にお問い合わせ頂ければお知らせします。受付時間は9時～12時および13時～16時です。

[注1] 詳細については、本学環境情報研究院等学務係にお問い合わせください。

[注2] 3頁「1. 出願資格」の（8）～（13）で出願を希望する者は事前審査が必要です。3～4頁の[注4]または[注5]に従って、必要な書類を提出してください。

3. 募集人員

専攻	コース	募集人員
環境生命学	地球環境	若干名
	生命環境	
環境システム学	マテリアルシステム	若干名
	システムデザイン	
情報メディア環境学	情報メディア学	若干名
	環境数理解析学	
環境イノベーションマネジメント		若干名
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	若干名
	セイフティマネジメント	
	計	若干名

[備考] 研究分野により受け入れ可能な人数が異なります。**あらかじめ志望指導教員とよく相談してから願書を提出してください。**志望指導教員がわからない場合には、表紙裏面に示す各専攻・コースの教員へお問い合わせください。

4. 出願期間

平成22年6月21日(月)から6月24日(木)まで、書留郵便による郵送受付

(事前審査を受けてから出願をお願いします。前頁参照のこと。)

出願書類の受付は日本国内から郵送のみです。郵送は**書留郵便**とし、本学府所定の封筒(志望専攻名を記入)を使用し、平成22年6月24日(木)までに、本学環境情報研究院等学務係へ郵送してください。**受付期限後到着のものは受理しません**ので、郵便事情等を十分考慮して早目に送付してください。ただし、日本国内の発信日が平成22年6月23日(水)の場合は、**書留速達**にして下さい。

5. 出 願 手 続

出願する人は、下記の書類に入学検定料を添えて本学府所定の封筒を使用し、志望専攻名を記入の上、本学環境情報研究院等学務係に提出してください。

日本語または英語以外の証明書については、日本語訳または英語訳を添付してください。

なお、書式2、書式3、書式4、書式10についてはⅧ章（50頁）を参照してください。

出 願 書 類 等	注 意 事 項	書式番号
入 学 願 書	用紙は本学府交付のもの。（社会人特別選抜用を使用のこと）	2
卒業証明書	出身大学作成のもの。（出願資格（8）で出願した者は除く） 外国人でやむをえず卒業証書の写しをもって代える場合は、必ず卒業証書を事前に受付窓口に表示してください。	—
成績証明書	出身大学(在籍大学)の学長または学部長により作成されたもの。	—
写 真	縦4cm、横3cmのもの2枚(出願前3か月以内に撮影したもの)。 写真は受験票および入学願書に貼付してください。	—
入学検定料	払込金額：30,000円。 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込場所：郵便局・ゆうちょ銀行の受付窓口（ATMは使用不可） [注1]「払込書」の※に、入学志願者（本人）の住所・氏名・電話番号を黒または青のボールペンで正確に記入してください。 [注2]「払込金受領証」および「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。 [注3]入学検定料が払い込まれていない場合または払込済の「郵便振替払込受付証明書」が所定の貼付用紙（様式10）の欄に貼り付けていない場合は出願を受理しません。	10
返信用封筒 2通	本学府交付の封筒に住所（国内）、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手（350円）を貼付し、 2通 提出してください。	—
住所氏名記入 用紙（シール）	用紙は本学府交付のもの。住所（国内）、氏名、郵便番号を記入してください。	—
研究（希望） 計 画 書	これまでに行った研究の概要とこれから本学府で行いたい研究への抱負や研究（希望）計画を1,000字以内で記載したもの。	4
業績報告書	卒業論文または研究論文を有する者のみ、業績概要を添付してください。また、現在および過去にたずさわった研究・職務について、その内容を詳しく記入してください。（様式は任意）	—
登録原票記載 事項証明書*	登録原票記載事項証明書(出願前3か月以内に交付されたもの) または入国査証の写し。外国人のみ提出してください。	—
履 歴 書*	本学府交付のもの。外国人のみ提出してください。	3
そ の 他	推薦書があれば添付してください。	—

*印の書類は外国人のみ提出してください。

6. 選 抜 の 方 法

社会人特別選抜は、次の方法により行います。

(1) 入学者の選抜は、口述試験、出願書類審査によって行います。

(2) 口述試験は上記出願書類について行い、専攻科目、研究業績、研究（希望）計画等に関して行います。

7. 選抜日時および場所

- (1) 口述試験日：**平成22年8月24日(火)**または**8月25日(水)**。
(各コースで指示するいずれかの日に実施します。)
- (2) 口述試験の場所
および日程等：平成22年8月9日(月) 13時ごろ本学環境情報学府掲示板に掲示すると共に本人宛に発送します。

8. 合格者発表

平成22年9月9日(木)16時ごろ本学環境情報学府掲示板に掲示すると共に合格者本人に郵便で通知します。

なお、電話による照会には応じません。

9. 入学確約書

社会人特別選抜による合格者は、入学手続期間(平成22年9月14日(火)～16日(木))までに入学確約書(様式は任意)を提出しなければなりません。入学確約書には勤務先の所属長の就学承認書(様式は任意)を添付してください。

10. 入学時に必要な経費

- (1) 入学料 282,000円
[注] 一度納入した入学料は、いかなる理由があっても一切返還しません。
- (2) 授業料 半期分 267,900円 (年額 535,800円)
[注1] (1), (2)とも、入学手続期間：**平成22年9月14日(火)～16日(木)**に納入してください。
[注2] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。
[注3] 詳細は、入学手続書類と一緒に送付します。

11. 注意事項

- (1) 口述試験には必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願手続後の提出した書類の内容変更は認めません。
- (3) 出願書類の記載事項に記入もれやその他の不備がある場合は、出願書類は受理しません。
- (4) 一度納入した入学検定料および提出した書類は、いかなる理由があっても一切返付しません。検定料の返還請求ができる場合は、「出願をしなかった」または、「検定料を二重に払い込んだ」場合で、返還請求方法は、返還請求願・返還請求理由書・郵便振替払込受付証明書(お客様用)が必要です。環境情報学府学務係へ問い合わせください。
- (5) 官公庁または会社等に在職している者は、入学手続の際、その長または代表者の就学承認書を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (6) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒(住所、氏名を明記し、80円切手を貼付)または返信用はがきを同封し、本学環境情報学府学務係あてに照会してください。ただし、掲示内容に関する問い合わせには応じません。
- (7) 留学資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (8) 身体に障害のある入学者の事前相談について
該当する者(出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む)は、受験及び修学上特別な措置を必要とすることが起こり得ますので、出願する前に必ず環境情報研究院等学務係へ次の様式により事前に相談してください。

なお、下表から判断できない場合については、問い合わせください。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の和声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規則を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

ふりがな
氏 名
生年月日
住 所 〒
電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学府・専攻・コース
 2. 身体の障害の種類、程度
 3. 受験に際しての希望する受験特別措置
 4. 入学後の修学に際して希望する特別措置
 5. そ の 他
- (添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写) 、その他参考資料

IV 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について

本学府では、社会人特別選抜で入学し、入学後も社会人の身分を有する学生（社会人学生）に対して、次のとおり履修等に関する特例を実施しています。

1 修学について

- (1) 修学年限（2年）の年数で修了しようとする学生については、初年度においては原則として全日通学とし、修了要件に必要な共通基礎科目、プレレキジット科目および講義等を履修すること。
- (2) 初年度において修了要件に必要な講義等の履修が困難な学生については、指導教員等（責任指導教員及び指導教員グループ）の指導のもとに、修学年限を超える年数（3～4年）の履修計画書をあらかじめ提出すること。
なお、履修計画に変更がある場合には、その都度申し出て履修計画書を提出すること。

2 履修について

- (1) 講義科目については、各専攻・コースごとに一部の科目を夜間開講可能科目として設定しており、事前に授業担当教員に申し出ることにより夜間に履修することができる。夜間開講可能科目については、入学式後のオリエンテーションで配付する履修案内で確認すること。
なお、共通基礎科目、プレレキジット科目および夜間開講可能科目以外の講義科目については、昼間に履修すること。

[注] 夜間開講の授業時間

時 限	時 間 帯
5 時限	1 6 時 1 5 分 ～ 1 7 時 4 5 分
6 時限	1 7 時 5 0 分 ～ 1 9 時 2 0 分
7 時限	1 9 時 2 5 分 ～ 2 0 時 5 5 分

- (2) 演習科目については、開講時間について配慮するので指導教員等に相談すること。
- (3) ワークショップ・実験については、開講時間について配慮するので指導教員等または各専攻・コースの学務委員に相談すること。

V 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（前期課程2年，後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく、標準修業年限（前期課程2年，後期課程3年）分の授業料で修学することができます。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、在学中も職業を有する者とします。

2. 申請の手続き

長期履修学生を希望する者は、次の（1）、（2）の書類を入学手続き時に提出してください。

（1）長期履修学生申請書（別紙様式1：平成22年9月上旬の入学手続き書類送付時に送付予定）

（2）在職証明書又は在職が確認できる書類

（3）提出期間は、平成22年9月14日（火）～9月16日（木）（期間厳守）で、入学手続き書類と同封のうえ、環境情報研究院等学務係へ提出してください。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、10月中旬に通知します。

4. 在学期間

入学時に長期履修が認められた学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、9月のほかに前期課程は3月，後期課程は3月，6月，12月となっていますので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。

（算出例1）前期課程の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合

$$535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円}$$

（授業料の年額）（標準修業年限）（認定された在学期間）（長期履修学生の授業料年額）

（算出例2）後期課程の長期履修学生申請者が在学期間5年と認定された場合

$$535,800 \text{ 円} \times 3 \text{ 年} \div 5 \text{ 年} = 321,480 \text{ 円}$$

（授業料の年額）（標準修業年限）（認定された在学期間）（長期履修学生の授業料年額）

6. 在学期間の変更

在学期間の変更は、1度限りです。【詳細は、必ず窓口（学務係）に相談をすること。】

(1) 短縮

長期履修学生は、認定された在学期間の短縮により修了することができます。（ただし、標準修業年限までとする。）

在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければなりません。

(2) 延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければなりません。

なお、在学期間は、前期課程4年、後期課程6年を超えることができません。

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになります。

7. その他

長期履修学生の申請にあたっては、あらかじめ志望指導教員とよく相談してください。

VI 博士課程前期 概要

1. 博士課程設置趣旨

21世紀の課題である持続的循環型社会の実現には、多面的な環境問題、急速に進展する情報科学、ダイナミックな社会のイノベーション等の分野において専門的知識を修得し、課題解決能力を有する人材が求められている。このため、自然破壊、エネルギー問題、資源・食料・生命問題、情報技術革新などの自然環境、人工環境、情報環境に関わる諸問題の理解と解決方法、およびこれらを支える物質・材料に関する教育研究を推進し、環境・情報・技術革新を適切にマネジメントする理論と方法論を幅広く修得し、高い専門性で見識から実践的問題解決能力を有する研究者・実務家を育成する。

本学府には、環境生命学、環境システム学、情報メディア環境学、環境イノベーションマネジメント、環境リスクマネジメントの5つの専攻があり、環境イノベーションマネジメント専攻以外の各専攻の前期課程には、それぞれ2つのコースがあります。専攻、コースの概要は以下の通りです。

専 攻	コ ー ス
環境生命学専攻 授業、実験・実習を通して、生命科学、応用化学、生態学、地球科学に関連する課題探求能力を身につけた研究者、実務現場で活躍できる技術者、管理者などの人材育成をする。このため、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来あるべき地球環境像の実現に向けた方策と技術の教育研究をする。	地球環境コース 地球上の自然環境自体を総合的システムとしてとらえ、そのメカニズムを教育し、実務現場で即戦力となる技術者や研究機関職員等の人材を育成する。
	生命環境コース 生命・生命システム及び様々な化学物質が生命・生活・生態システムに与える影響を教育し、環境及び生命科学関連産業分野で広く活躍できる人材を育成する。
環境システム学専攻 持続循環型社会の実現に寄与するために、人工物のライフサイクルを視野に入れ、グローバルな問題に対応でき、しかも、実践的・創造的で幅広い政策立案から細かなコンサルティングにまで対応できる高度専門的人材を育成する。このため、デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源リサイクル、および人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法において高度で専門的な理論と方法論を教育研究する。	マテリアルシステムコース デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源確保について教育し、材料分野において創造的な政策立案ができる人材を育成する。
	システムデザインコース 人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法を教育し、政策立案から細かなコンサルティングにまで対応できる人材を育成する。

専攻	コース
<p>情報メディア環境学専攻</p> <p>情報システムの安全性と情報分析・モデル化を視野に入れた情報システムや情報メディア技術の根幹を支えるシステム開発技術者、設計者、システムアナリストとして活躍できる総合的な目標設定・達成能力を備えた自立的な人材を育成する。このため、環境から情報を取り込み、新しい情報環境を構築するためのソフトウェアや情報処理技術に加え、情報メディアに着目した情報分析・モデル化・表現法、情報システムと人を取り巻く環境の情報セキュリティやコミュニケーション技術、複雑なシステムに対する数理解析手法について教育研究する。</p>	<p>情報メディア学コース</p> <p>環境を含む様々のメディア情報からの意味抽出、情報体系化、モデル化、データベース・ネットワークにおける問題解決手法等を総合的に教育し、情報メディアに関する深い理解と技術を持った人材を育成する。</p> <p>環境数理解析学コース</p> <p>自然界の複雑なシステムを解明するための数値解析、関数解析手法、それをを用いたシステム開発を教育し、数理的思考能力に基づいた新しいシステムを開発していける人材を育成する。</p>
<p>環境イノベーションマネジメント専攻</p> <p>企業や行政および関連団体においてイノベーションのマネジメント方法を企画立案し、実行できる専門性と見識を有する人材育成をする。このため、イノベーションについての基本的考え方とその推進戦略、人間環境や社会環境の変化に応じた社会的受容、地球環境との調和などに関する基盤知識と実践的方法論について教育研究する。</p>	<p>企業や行政及びその関連団体等における環境・情報関連ビジネスの推進・起業、技術イノベーションの管理、新技術の評価、環境政策や産業振興政策の推進等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p>
<p>環境リスクマネジメント専攻</p> <p>企業や行政および関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災・都市環境計画等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識、あるいは研究能力を持つ人材を育成する。このため、環境リスクマネジメントの企画、立案と実行に必要なとされる現代社会のリスク構造と社会的要因に関する基礎知識、人や動植物等の生命環境リスクおよび産業や都市の事故・災害リスクの評価とマネジメント手法、およびそれらに関する国内外の実態等を教育研究する。</p>	<p>生命環境マネジメントコース</p> <p>国や地方自治体と関連団体及び企業等における自然生態系保全や有害化学物質の環境リスク管理等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p> <p>セイフティマネジメントコース</p> <p>企業及び国や地方自治体と関連団体等における産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災・都市環境計画等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識をもった人材を育成する。</p>

これらのコースから主コースと専攻の異なる副コースを選び、幅広い知識を身につけることも可能です。

2. 環境情報学府・専攻のアドミッション・ポリシー [入学者受入方針]

学府・専攻	アドミッション・ポリシー
環境情報学府 (博士課程前期)	<p>多様な環境問題、急速に進展する情報科学、社会のイノベーション等の分野の専門家として、自然環境、人工環境、あるいは情報環境に関する諸問題の解決と持続的社会的実現に貢献しようとする人を、文系・理系を問わず広く求めます。</p>
環境生命学専攻	<p>本専攻は、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来のあるべき地球環境像を共有し、それを実現することを目的としています。そのために必要な学習や実験、調査などに精力的に取り組む、論理的かつ柔軟な発想で問題を解決する意欲を持った人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境や自然現象、生命現象に広い興味を持ち、地球環境問題の解決に強い意欲を持つ人 2. 室内実験や野外調査などに情熱を持って積極的に取り組むことができる人 3. 地球環境の将来について自分の意見を持ち、真剣に考えることができる人、また地球環境の将来像についてのヴィジョンを形成し、その実現に向けて行動したいと考える人
環境システム学専攻	<p>本専攻は、人工物のライフサイクルを視野に入れ、循環型社会の実現に寄与するために、グローバルな問題に対応でき、しかも、実践的かつ創造的能力を備え幅広い分野に対応できる高度専門的人材育成を目的としています。このため、デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源リサイクルを意識した製造、および人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法についての教育のもとに、政策・企画の立案から環境を意識したものづくりや細かなコンサルティングにまで対応できる高度で専門的な素養を持つ人材を養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マテリアルシステムコースでは、環境と調和した材料の開発、分析についての基礎知識を有し、発想豊かに柔軟性をもって積極的に取り組める人を求めます。 ・ システムデザインコースでは、環境と調和した人工環境空間およびその要素の形成、制御、維持・管理、システムデザイン技術・手法についての基礎知識を有し、発想豊かに柔軟性をもって積極的に取り組める人を求めます。

<p>情報メディア環境学 専攻</p>	<p>本専攻は、情報システムの安全性と情報分析・モデル化を視野に入れた情報システムや情報メディア技術の根幹を支えるシステム開発技術者、設計者、システムアナリストとして活躍できる自立的な人材の育成を目的としています。本専攻の関連分野に興味を持ち、情報メディアや数理解析に関連する基礎学力を有し、自分で問題を発見して解決していきながら、自ら選んだ専門分野の見識を深め、その学術的展開を志す人を広く求めます。</p>
<p>環境イノベーション マネジメント専攻</p>	<p>本専攻は、企業、シンクタンク、産業振興機関、中央官庁、地方公共団体などにおいて、イノベーション・プロジェクトやイノベーション振興策の企画・立案、実行、評価に関与し、貢献する人材の育成を目的としています。このため、イノベーション推進についての基本的な考え方、人間環境や社会環境の変化に応じてイノベーションが受容されるための条件についての基盤知識、イノベーションが解決すべき地球環境上の課題についての研究を志望する学生を求めます。</p>
<p>環境リスクマネジメント 専攻</p>	<p>本専攻は、企業や行政および関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市環境・都市防災等の分野において、中核的役割を担う高い専門性で見識、あるいは研究能力を持つ人材の育成を目的としています。このため、人や動物などの生命環境リスク、および産業や都市での事故・災害リスクについての基本的考え方、および評価と改善策に必要な知識と手法を積極的に身につけ、リスクマネジメントの実践を志す人を広く求めます。</p>

3. 環境生命学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 地球環境コース

指導教員	研究内容	講義科目
大野 啓一	植物社会学, 植生生態学, 景観生態学, 保全生態学, 回復生態学, 緑地環境設計	植物社会学
原田 洋	土壌動物, ササラダニ類, 環境保全林, 自然環境評価	生物環境診断学
有馬 眞	固体地球科学, 地球物質科学, 大陸の形成と進化, 物質循環, 化学分化プロセス	地球物質科学
石川 正弘	構造地質学, 高圧地震波速度測定, 固体地球ダイナミクス, テクトニクス, 地圏環境科学	地圏環境科学
間嶋 隆一	古生物学, 系統分類学, 堆積学, 地質学, 軟体動物学	海洋古環境学
菊池 知彦	海洋の生物多様性と物質の循環に関する研究 海洋生物多様性学, 生物海洋学, 海洋プランクトン学 動物系統分類学,	海洋生物多様性学
持田 幸良	群落構造論, 群落立地論, 群落分布, 遷移と変遷, 群落評価論	立地群落学
雨宮 隆	複雑系の基礎研究と環境生態学への応用: 湖沼マイクロ コズム, 数理生態モデル, バイオレメディエーション, 複雑系 (社会生態系, 非線形化学) ダイナミクス	生態環境と複雑系
中森 泰三	土壌動物と微生物の相互作用, 菌類の被食防衛, 土壌生態毒性学	生物多様性科学
酒井 暁子	環境保全論, 植物群集の構造解析および生育立地の分析, 植物の生活史戦略, 植物地理学, 植物生態学	環境保全論
森 章	森林生態学, 生態系管理学, 景観生態学	植生環境管理学

2) 生命環境コース

指導教員	研究内容	講義科目
栗原 靖之	RNA制御による哺乳類精子形成の分子機構, 哺乳類遺伝学, 分子生物学, モノクローナル抗体技術, 生殖細胞工学, 動物における遺伝情報発現調節	遺伝情報機能科学
平塚 和之	植物の遺伝子発現制御, 生殖細胞形成, DNA修復と遺伝子組換え, 植物病理学, 植物遺伝子工学の環境科学への応用	植物遺伝子工学 生命環境特設講義 (植物をめぐるリスクマネジメント)
笹本 浜子	環境遺伝子工学, 植物細胞工学, 植物細胞培養, 組織培養, 植物ホルモン, 代謝生理	植物細胞工学
中村 達夫	植物生理学, 分子生物学, 高等植物の環境応答, 無機栄養代謝	植物環境応答論
鈴木 敦	発生生物学, マウスを用いた発生工学, 分子生物学, 哺乳類生殖細胞の形成機構	発生生物学
横山 幸男	生命分析化学, 液体クロマトグラフィー, 質量分析法, イオンクロマトグラフィー, 機能性分離場の開発, 化学診断学	質量分析学
谷生 重晴	発酵工学, 生物化学工学, 環境科学, 環境エネルギー工学	生物エネルギー変換工学
大谷 裕之	構造有機化学, 超分子化学	生命と超分子化学
松本 真哉	機能性色素化学, 有機結晶化学, 有機光電子材料, 分子性結晶の光物性, 結晶成長機構, 分子間相互作用, 有機色素合成, 環境教育	材料化学のための結晶学
尾形 信一	遺伝子工学, 植物分子遺伝学, 植物細胞工学, 植物染色体工学, 減数分裂	植物遺伝子機能学
本田 清	生命システム化学, 有機合成化学, 生物活性化合物の合成, 機能性有機化合物の合成, ビタミン・ホルモン, 選択的合成反応, グリーンケミストリー	生命システム科学
塩見美喜子	RNA 干渉, ncRNA の生合成と遺伝情報発現制御	生命分子情報システム学 (連携)
岡野ジェイムス 洋尚	神経生物学, 転写後制御による神経細胞の発生, 神経幹細胞	生命高次適応科学 (連携)

は、志望指導教員として選択できません。

4. 環境システム学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) マテリアルシステムコース

指導教員	研究内容	講義科目
目黒 竹司	炭素材料の製造と特性, 炭素材料の微細孔隙構造制御, 炭素材料の酸化反応性, スピネル型遷移金属酸化物	環境材料学
鈴木 淳史	環境調和材料, エコマテリアル学, 機能性材料, ゲルの科学と技術	自律環境応答材料
奥谷 猛	バイオマスの利用, 凝縮物質のTPS法による熱物性測定, 微小重力利用材料合成	循環適合材料学
中野 健	トライボロジーと機械振動音響学の境界領域 (界面力学現象・摩擦振動現象・音響波動現象・触覚情報)	摩擦振動システム論
多々見純一	セラミックスの微構造と力学特性, 先進セラミックスプロセスング, 線形破壊力学, 破壊統計論, 評価設計手法	構造材料科学
荒牧 賢治	溶液化学, 界面化学, 界面活性剤分子集合体の構造制御とその環境低負荷材料・プロセスの創製への応用	機能性溶液学
脇原 徹	無機材料化学, セラミックスプロセスング, 多孔体材料	環境材料解析論

は、志望指導教員として選択できません。

2) システムデザインコース

指導教員	研究内容	講義科目
森下 信	振動制御, ニューラルネットワーク, インテリジェントシステム, 機能性流体, セルオートマトン, 複雑系, バイオメカニクス	調和システム学
山田 均	土木工学, 風工学, 鋼構造, 橋梁工学, 長周期構造システム, 空力弾性学, 構造動力学	構造物安全設計学
上野 誠也	最適制御理論, 数値最適化, 航空機の最適飛行経路, 惑星探査機の軌道設計, 人工衛星の姿勢制御, 宇宙ロボットの自律制御	極限環境システム論
村井 基彦	海洋工学, 大型海洋構造物設計, 浮体式構造物設計, 海洋空間利用システム, 流力弾性学, 海洋環境工学	システム数理モデル論
吉田 聡	建築・都市環境工学, 建築・地域・都市エネルギー計画, 建築・都市設備工学, 地理情報システム	環境安全都市基盤計画論
細田 暁	コンクリート工学, メインテナンス工学, 土木材料学	耐震耐久設計学
白石 俊彦	振動制御, インテリジェント構造, 機能性材料, 複雑系, ニューラルネットワーク, バイオエンジニアリング, 細胞の力学	インテリジェント構造システム学

5. 情報メディア環境学専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 情報メディア学コース

指導教員	研究内容	講義科目
有澤 博	データベース理論, マルチメディアデータベース, 時空間情報モデリング, マルチメディアネットワーク, 医学情報処理	統合メディア学原論 モデリングとシミュレーション
富井 尚志	視覚情報処理, 時空間情報処理, データベースの高度応用, 映像情報システム, マルチメディアデータベース	映像データベース論
長尾 智晴	知能情報処理, 画像工学, 神経回路網, 人工知能, 進化計算法, 進化経済学, 人工生命	知能情報処理論
森 辰則	デジタルドキュメント処理, 情報検索, 情報抽出, 自然言語処理, 自然言語インタフェース	言語情報処理原論
松本 勉	情報セキュリティ, 暗号アルゴリズム, セキュリティプロトコル, 情報利用管理, バイオメトリクス, 耐タンパー技術	暗号と情報セキュリティ
四方 順司	数理アルゴリズム, 楕円曲線離散対数問題, 量子計算機に対抗できる暗号, 情報理論・符号理論の応用	数理アルゴリズム基礎論
後藤 敏行	視覚情報処理, 画像理解, 医用画像処理, ヒューマンインタフェース, ロボットビジョン	視覚情報システム論
岡嶋 克典	視覚認知機構, 複合感覚情報処理, 人工現実感応用, 色彩情報処理, 視環境制御設計, 加齢福祉工学	3次元画像表現
田村 直良	自然言語処理, 自然言語インタフェース, 文章の自動文脈解析, 音声合成応用, 音声認識応用	言語とコンパイラ
マーチン ロジャー	理論言語学, 言語哲学, 統語論, 意味論, 言語習得理論	数理言語学
藤井友比呂	理論言語学, 統語論, 言語獲得	理論言語学
齋藤 知行	動作解析学, バイオメカニクス	医用情報処理学 (連携)
竹林 茂生	放射線診断学, 医用画像解析学	医用画像診断基礎論 (連携)
根本 明宜	リハビリテーション医学, 人体運動計測	人体運動計測基礎論 (連携)

は、志望指導教員として選択できません。

2) 環境数理解析学コース

指導教員	研究内容	講義科目
山田 貴博	計算力学, 有限要素法, 数値解析, 固体力学, 流体力学	シミュレーション数理解析
松井 和己	マルチスケール・マルチフィジックス計算力学, マルチスケール解析による材料特性の評価, 計算力学手法による構造物の最適設計	数理解析モデリング モデリングとシミュレーション
有光 直子	物理数値解析, 非平衡統計物理, コンピューター応用	応用数値解析
寺田 敏司	複雑系の数理解析, 実数体上の計算機械モデル, 関数空間, トポロジー	複雑系の基礎
平野 載倫	関数解析, 最適化理論, 非線形微分方程式	解析学特論
酒井 譲	数値シミュレーション理論, CG理論, 知識情報処理論, 情報メディア論	計算力学概論
根上 生也	位相幾何学的グラフ理論, 離散数学, 低次元トポロジー	空間とトポロジー
野間 淳	代数幾何学, 射影多様体, 代数曲線, ベクトル束, 定義方程式	情報代数学
西村 尚史	特異点論, 分岐理論, カタストロフ理論, フラクタル	特異性の幾何学
中本 敦浩	位相幾何学的グラフ理論, 離散数学, 計算幾何学	組合せの数理解析
白崎 実	計算流体力学, ハイパフォーマンスコンピューティング, ボクセルベースシミュレーション, 大規模有限要素法並列計算	計算流体力学概論
原下 秀士	整数論, 代数幾何学, アーベル多様体, モジュライ空間, 形式群, p -可除群, 有限群スキーム	整数論の基礎

6. 環境イノベーションマネジメント専攻の指導教員の研究内容および講義科目

指導教員	研究内容	講義科目
周佐 喜和	グローバル企業の戦略と組織，国際技術移転，経営の国際比較，企業のイノベーション・マネジメント	技術マネジメント論 イノベーション組織論
近藤 正幸	国家イノベーションシステム，地域イノベーション，産学官連携，大学発ベンチャー，研究開発のダイナミクス，研究開発評価，途上国の技術戦略	イノベーション政策論
三井 逸友	地域産業集積，企業間組織・ネットワーク，創業起業家，中小企業政策，自治体産業行政，開発と市場化	地域イノベーション政策
竹田 陽子	情報技術の経営組織・戦略に及ぼす影響，組織論，戦略論，技術マネジメント論	情報技術と経営戦略
安本 雅典	製品開発，イノベーション組織のマネジメント，製品開発組織の国際比較，企業間関係のマネジメント	イノベーション戦略論
志田基与師	理論社会学，数理社会学，社会的選択理論，日本婚姻儀礼史	イノベーションと社会的合意形成 リスク社会論
安藤 孝敏	高齢社会論，エイジング論，地域社会論，社会調査法	共生社会創生論
室井 尚	情報文化論，メディア美学，文化研究，記号論，現代思想	情報革命と文化イノベーション
長谷部英一	中国科学史，中国天文学，中国医学	イノベーション思想史
本藤 祐樹	持続可能社会に向けた技術リスクの評価・管理，環境・エネルギー問題のシステム分析（LCA，産業連関表を用いた分析など），国や地域における環境・エネルギー政策	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会
梅本 洋一	映画論，映像論，映画批評史，批評理論，演劇史	文化表現におけるイノベーション
宮崎 隆	哲学	環境と認識
鳴海 大典	都市エネルギー・熱代謝系，持続可能な都市・建築設計 エネルギーイノベーション，先端技術の社会適応マネジメント，ヒートアイランド	イノベーションと環境マネジメント
萩原 一平**	情報技術革新と企業環境，環境情報の共有化とネットワーク戦略，ITアウトソーシング戦略，コミュニティ・ナレッジ・マネジメント	環境情報コミュニケーション（連携）
吉村 哲哉**	ハイテクベンチャー経営，ベンチャー創出メカニズム，国内外のクラスター構造，諸関係機関とクラスターの関係，産学官連携，クラスター政策	ベンチャー・クラスター論（連携）

は、志望指導教員として選択できません。

** 連携分野、これらの教員を志望指導教員として希望する場合は、予め、表紙裏面の学務委員（長谷部）に相談してください。

7. 環境リスクマネジメント専攻の指導教員の研究内容および講義科目

1) 生命環境マネジメントコース

指導教員	研究内容	講義科目
及川 敬貴	世界と日本の環境法，事故・災害被害防止の法制度，欧米と日本の環境政策比較，環境政策の決定過程とNGO，自然保護運動の役割と課題	市民運動と環境政策 環境リスクマネジメントのための国際社会制度
小池 文人	生態特性による植物群集の組み立て規則，外来種の侵入リスク評価，動物の影響を含めて多様性を保全できる景観の設計	植物個体群・群集生態マネジメント
金子 信博	陸上生態系の食物網構造の解析，陸上生態系の栄養塩類と炭素比等の生態化学量論，土壤汚染による生態系リスク管理の理論と実証	土壤生態系リスクマネジメント
松田 裕之	環境リスク評価，絶滅危惧種の判定，予防原則，環境政策，生態系の管理と保全，合意形成，環境影響評価，エコロジカルフットプリント，順応的管理，進化理論	生態リスクマネジメント理論 リスク分析論
亀屋 隆志	資源の有効で安全な循環利用技術，廃棄物処理におけるリスク情報とマネジメント技術，化学物質の環境安全性評価と発生源・排出源のマネジメント手法	資源循環・廃棄物リスクマネジメント
中村 栄子	環境中化学物質の分析方法の開発，試料特性に基づく前処理技術の開発	環境リスク評価のための分析技術
益永 茂樹	環境汚染モニタリング，化学物質の発生源・環境挙動・リスクの解析，モデルシミュレーション，リスク便益評価	化学物質の環境動態とリスクモデル リスク社会論
藤江 幸一	環境汚染の評価と対策，資源・エネルギーの有効利用，物質循環，リサイクルプロセス，人工生態系の持続的維持管理，バイオレメディエーション	環境汚染リスクの評価と対策技術
嘉田 良平	農業経済学，アジア農業発展論，食料安全保障論，中山間地域問題，農林水産業の持続可能性，人獣共通感染症に係わる食料・農業のリスクマネジメントとリスクコミュニケーション	食品リスク管理論
中井 里史	環境疫学，環境健康リスク評価・リスクマネジメント，曝露及び健康，影響指標，因果推論，大気汚染，室内環境，食品安全	環境疫学・健康リスク評価方法論

大矢 勝	情報表現と環境リスク認識, 消費者情報の分析・評価システム, 環境問題の次元認識, 洗剤の環境影響, 洗浄技術・試験法	生活者のための環境リスク情報の評価
川本 克也**	循環型社会形成システム, 廃棄物適正処理技術, 廃棄物有効再利用技術, 有害物質管理技術	地球環境保全と循環型社会形成技術(連携)

は、志望指導教員として選択できません。

**連携分野これらの教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の学務委員に相談して下さい。

2) セイフティマネジメントコース

指導教員	研究内容	講義科目
大谷 英雄	化学物質のセイフティマネジメント, 産業災害のリスクリテラシー, 化学プラントのリスクアセスメント, 化学産業のリスクマネジメント	化学物質のセイフティマネジメント リスク分析論
小林 剛	化学物質の有害性・危険性関連情報の収集方法及び解析及び利用方法, 効率的な土壌・水質・大気の汚染評価方法, 有害化学物質の管理方法	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用
岡 泰資	火災ハザード解析と評価, 火災原因調査, 可燃物の燃焼性状と煙・熱の流動性状, 火災感知と作動時間予測	火災の科学と防火技術 リスク社会論
笠井 尚哉	非破壊検査, 有限要素シミュレーション, 逆問題解析, リスクベースインスペクション, 災害事故統計分析	設備検査と事故原因解析 リスクベースメンテナンスと維持規格
佐土原 聡	都市環境のデザイン・マネジメント, 地域冷暖房, 地域エネルギーシステム, 都市の危機管理・防災, 安全・環境調和まちづくり, 生態系サービスを活かした都市, 地理情報システム (GIS)	安全・環境調和都市デザイン論
三宅 淳巳	化学物質のフィジカルリスク解析, 化学災害の影響評価, エネルギー物質の爆轟特性解析, 技術システムのリスク解析と管理手法の検討	地域社会と化学災害リスク論
澁谷 忠弘	機械システムのリスクアセスメント, 機械構造物の強度信頼性, 故障物理と信頼性評価, ヘルスモニタリングによる破壊制御, 未然防止設計	機械システムのリスク評価と制御技術
熊崎美枝子	化学プロセスのリスク評価, 化学産業の総合安全管理技術, ヒューマンファクターと組織の安全文化	化学反応プロセスのリスク評価と制御技術
松宮 正彦	環境調和型プロセス技術, 希土類廃棄物リサイクル技術, 電気化学システム開発	環境リスク評価のための電気化学解析論

座間 信作**	地震の予知, 地震災害の評価, 都市防災システム, 災害情報伝達, 緊急事対策	地震リスク評価学(連携)
野口 和彦**	企業における環境安全管理組織, 社会的要請と企業のリスクマネジメントシステム, リスク対応型社会システム構築方法	安全・安心のための社会組織論(連携)

**連携分野これらの教員を志望指導教員として希望する場合は予め、表紙裏面の学務委員に相談して下さい。

8. 履修方法

博士課程前期修了に必要な履修単位は下記の通りです。

環境生命学専攻・環境システム学専攻・情報メディア環境学専攻

授業科目		修了に必要な単位数
演習		8単位以上
ワークショップ・実験		2単位以上
講義	専門科目	8単位以上
	共通基礎科目	4単位以上
	選択科目	8単位以上
合計		30単位以上

環境イノベーションマネジメント専攻・環境リスクマネジメント専攻

授業科目		修了に必要な単位数
演習		8単位以上
ワークショップ・実験		2単位以上
講義	①共通基礎科目	4単位以上
	②専攻共通コア講義科目	4単位以上
	③イ) 専攻専門講義科目 リ) コース専門講義科目	6単位以上
	専攻(コース)選択専門講義科目	①②③を含んで20単位以上
合計		30単位以上

イ) 環境イノベーションマネジメント専攻

リ) 環境リスクマネジメント専攻

そのほかに、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けます。すなわち、学生は指導教員が必要と判断したときは、基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修しなければなりません。履修すべき科目は、個々の学生ごとに指導教員が指示します。プレレキジット科目の履修を求められた学生はその単位を取得しなければ学位論文作成資格を得ることができません。プレレキジット科目は、修了に必要な単位には含まれませ

ん。

- ・演習の単位は各教員が前学期および後学期に開講する科目で、複数年に渡って重複して単位を取得することができます。（一部の演習を除く）
- ・学位論文のための研究に対しては単位を与えません。
- ・単位は本学府授業科目の中から修得することを原則としますが、指導教員が必要と認める場合には、10単位を限度として、本学大学院他研究科および他学府（教育学研究科、国際社会科学研究所博士課程前期、工学府）、単位互換を申し合わせている他大学大学院研究科の授業（講義科目）で代えることができます。

9. 学 位

プレレジット科目及び修了に必要な科目を履修し、研究論文を作成し審査に合格した者には学位が与えられます。

本学府の前期課程で取得できる学位は以下の通りです。

専 攻	取得できる学位
環境生命学	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)
環境システム学	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)
情報メディア環境学	修士(情報学)、修士(工学)、修士(学術)
環境イノベーションマネジメント	修士(環境学)、修士(技術経営)、修士(学術)
環境リスクマネジメント	修士(環境学)、修士(工学)、修士(学術)

[注] 学位審査委員会の判断により、学生は取得学位を選択することができます。

10. 短縮修了

博士課程前期の在学期間は標準2年ですが、本学府では、特に研究業績が優れた者に対して短縮修了を認めています。この場合の在学期間に関しては、1年以上在学すれば足りるものとします。

短縮修了を希望する者は、指導委員会のもとで履修条件を満たす単位修得が可能になるように履修計画を立てることになっております。

博士課程学生への経済支援、教育・研究支援制度について

博士課程の学生が、経済的理由等により学業に専念できないことがないように、また、学生の研究活動が活発に行われるよう、さまざまな形での経済支援、教育・研究支援の制度が取られています。

経済支援の概要

◆日本学術振興会特別研究員

※対象：博士課程後期学生

日本学術振興会が行う制度で、優れた若手研究者に、研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的とした、大学院博士課程在学者を対象に研究奨励金を支援する制度です。

特別研究員 DC1（博士課程後期第1年次在学学生） 200,000円/月
DC2（博士課程後期第2年次以上在学学生） 200,000円/月

*平成21年度実績：DC1 1名 DC2 1名

◆日本学生支援機構奨学金

※対象：博士課程前期・後期学生

日本学生支援機構が行う大学在学学生に対する奨学金を貸与する制度で、第一種（無利子）、第二種（有利子）の区分が設けられています。なお、10月上旬に、予約採用に関する説明会があります。

第一種（無利子）：博士課程後期 122,200円/月
第一種（無利子）：博士課程前期 88,000円/月
第二種（有利子）：50,000円・80,000円・
100,000円・130,000円・150,000円/月から選択

*平成21年度実績：第一種 博士課程前期 52名 博士課程後期 15名
：第二種 博士課程前期 44名 博士課程後期 3名

◆横浜国立大学授業料免除

※対象：博士課程前期・後期学生

経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業が優秀な学生が申請でき、申請者の中から選考のうえ、各学期の授業料の全学または半額が免除される制度です。

全額免除（各学期） 267,900円
半額免除（各学期） 133,950円

*平成21年度実績：全額免除（前学期） 博士課程前期 20名 博士課程後期 27名
（後学期） 博士課程前期 17名 博士課程後期 25名
：半額免除（前学期） 博士課程前期 38名 博士課程後期 18名
（後学期） 博士課程前期 47名 博士課程後期 20名

◆RA(リサーチ・アシスタント)(環境情報研究院)

※対象：博士課程後期学生

博士課程後期学生の授業料免除申請者を対象とし、授業料半額免除者及び、授業料免除非該当者をRAとして雇用し、支援を行う制度です。

ただし、日本学術振興会特別研究員、授業料相当額以上の奨学金受給者（日本学生支援機構の奨学金貸与者除く）、一定額以上の収入のある者（社会人学生等）、留年生（ただし、休学期間のある学生は、別途考慮）、国費外国人留学生、外国政府等派遣留学生等は対象となりません。

授業料半額免除者 267,900×1/4相当額
授業料免除非該当者 267,900×1/2相当額

*平成21年度実績：34名

◆TA(ティーチング・アシスタント)(横浜国立大学)

※対象：博士課程前期・後期学生

教育的配慮の下に教育補助業務に携わることにより、大学院学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会の提供を図り、これに対する手当を支給して支援を行う制度です。

*平成21年度実績：博士課程前期 185名 博士課程後期 30名

◆COE-RA(環境情報研究院)

※対象:博士課程後期学生

横浜国立大学グローバル COE プログラム「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」に関する課題を研究する博士課程後期学生が応募でき、応募者の中から選考のうえ、RAとして雇用し支援を行う制度です。

月額 7万円程度

また、審査を経て、研究費10万円(予定)が支給されます。

*平成21年度実績:20名

◆環境情報学府女性院生研究支援奨学金

※対象:博士課程後期学生

博士課程後期学生(女性)で、子育てや介護等で経済的に困難を抱えている女性院生が申請でき、申請者の中から選考のうえ、勉学支援のための奨学金を付与する制度です。

月額 3万×5ヶ月(予定)

*平成21年度実績:4名

◆環境分野再チャレンジ支援(平成21年度)

※対象:博士課程前期・後期学生

社会人等学生が申請でき、申請者の中から選考のうえ、各学期の授業料の全額又は半額が免除される制度です。なお、あわせて授業料免除を申請することになっております。

全学免除(各学期) 267,900円

半額免除(各学期) 133,950円

*平成21年度実績:全額免除(前学期) 博士課程前期 4名 博士課程後期 11名
(後学期) 博士課程前期 4名 博士課程後期 12名
:半額免除(前学期) 博士課程前期 2名 博士課程後期 7名
(後学期) 博士課程前期 2名 博士課程後期 8名

教育・研究支援の概要

◆横浜国立大学国際学術交流奨励事業(国際会議等出席・海外調査研究等)

※対象:博士課程前期・後期学生

海外における国際会議等での研究発表及び調査研究等に対し、奨励金を支給することにより、学生の研究活動の活性化を図ることを目的とした制度です。

申請者の中から選考のうえ、渡航する地域により、奨励金が給付されます。

*平成21年度実績:博士課程後期 4名

◆国際学会等における発表等支援事業(環境情報学府)

※対象:博士課程後期学生

博士課程後期学生が、原則として海外で開催される国際学会・研究集会に積極的に参加できるよう、参加に必要な経費を援助することにより、国際的に活躍できる研究者の養成に資することを目的とした制度です。

横浜国立大学国際学術交流奨励事業に応募することを前提として申請を受け付け、不採択となった学生に対して審査が行われ、経費の援助を行います。

海外の場合:200,000円(上限)

国内の場合:60,000円(上限) いずれも、旅費として支給

*平成21年度実績:8名

◆環境情報研究院共同研究プロジェクト「課題C」

※対象:博士課程後期学生

独立して研究を行う環境情報学府博士課程後期学生を支援することを目的として、新規プロジェクト課題を募集し、審査を経て採択された課題に研究費を配分する制度です。

*平成21年度実績:25名

VIII 提出用書式集

以下の頁には環境情報学府を受験するために必要な提出書類の書式を集めてあります。本冊子より切り取って必要事項を記入し提出しなければならない書式と、ここにある書式をまねてワープロなどで別の用紙に文書を作成して提出してもよい書式とがあります。以下の表は、この表のあとに収められているいろいろな書式の使い方についてまとめてあります。提出文書の作成に役立ててください。

出願書類内訳書別紙1 **筆**・別紙2 **特**又は別紙3 **社**を下記種類に添えて提出して下さい。

書式番号	書式タイトル	利用方法及び使用にあたっての注意
書式1	入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式1-1	研究室調査	綴じ込まれている用紙を使用
書式2	社会人特別選抜入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式3	履歴書	綴じ込まれている用紙を使用
書式4	研究(希望)計画書	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。なお、本文は、1,000字以内で作成してください。
書式5	出願資格認定申請書	綴じ込まれている用紙を使用
書式6	出願資格認定調書	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。
書式7-1 書式7-2	特別選抜出願資格証明書 特別選抜推薦書	綴じ込まれている用紙を使用
書式8	出願資格証明および推薦書	綴じ込まれている用紙を使用
書式9	特別選抜入学確約書	綴じ込まれている用紙を使用
書式10	郵便振替払込受付証明書貼付用紙(入学検定料 30,000円)	綴じ込まれている用紙を使用

平成22年度10月入学横浜国立大学大学院環境情報学府入学願書および受験票
記入の手引き

- (1) 記入は黒又は青のボールペンを用い、楷書で正確に記入してください。
- (2) 受験番号※の欄は記入しないでください。
- (3) 志望専攻名の欄および志望コース名の欄には、いずれか一つだけを記入してください。
- (4) 外国人は、国籍を記入し、登録原票記載事項証明書または入国査証の写しを添付してください。
- (5) 入学願書の裏面にある履歴事項も忘れずに記入してください。
- (6) 志望指導教員欄は、1名教員名を記入して下さい。
- (7) 志望指導教員との連絡日は、入学出願に当たって連絡した日を記入して下さい。

問い合わせ先

環境情報研究院等学務係〔環境情報1号棟2階〕

住 所： 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7

電 話： 045-339-4425, 4426

E-mail: kankyojoho@ynu.ac.jp

時 間： 9時から12時までおよび13時から17時まで

環境情報学府博士課程前期 専攻・コース別問い合わせ教員一覧

専攻名	コース名	氏名	電話番号 E-mailアドレス
環境生命学	地球環境	酒井 暁子	045-339-4360 gyoko@ynu.ac.jp
	生命環境	本田 清	045-339-3967 k-honda@ynu.ac.jp
環境システム学	マテリアルシステム	中野 健	045-339-4331 nakano@ynu.ac.jp
	システムデザイン	村井 基彦	045-339-4098 m-murai@ynu.ac.jp
情報メディア環境学	情報メディア学・ 環境数理解析学	田村 直良	045-339-4161 tam@ynu.ac.jp
		平野 載倫	045-339-4207 hira0918@ynu.ac.jp
環境イノベーション マネジメント		長谷部英一	045-339-3344 hasebe@ynu.ac.jp
環境リスクマネジメント	生命環境マネジメント	亀屋 隆志	045-339-4190 kameya@ynu.ac.jp
	セイフティマネジメント	澁谷 忠弘	045-339-3597 shibu@ynu.ac.jp